

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 一階		
所在地	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町14-5		
自己評価作成日	平成23年2月6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。夏場は熊、鹿、キタキツネも間近に見られ、厳しい冬にはオジロワシ、オオワシ、白鳥も見られます。そんな環境の中で精神的なりフレッシュは勿論、体調にも大変良い所です。また羅臼町は漁師町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や知人、友人から新鮮な魚介類の差し入れを頂き、皆で美味しく頂いております。そして、多少町から離れているものの車で走ればほんの数分の位置に今まで利用者さんが行っていた昔から顔馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が自然に維持出来ています。また、町内会や婦人部の方々が慰問に来てくれ歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等話に花を咲かせています。それから、当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。家事仕事得意な方には食器拭きや洗濯たみ等の作業と一緒に、書道が得意な方には毎食のメニュー書きをして貰ったり、毎日の生活の中で役割や楽しみを持ち、利用者が生き生きと生活していけるようお手伝いしています。又、利用者と職員の関係が利用者、職員としてではなく、人対人としての関わりとして、共に笑い、共に泣き、時には共に怒り、と一緒に感じながら過ごしていきたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<職員を育てる取り組み>**  
ホーム外で開催される研修会や勉強会には積極的に参加出来るように取り組んでおり、ホーム内でも毎月、現場に即した勉強会や研修会、外部研修報告会を実施し、職員のケアの質の向上に取り組んでいる。又、職員は業務の自己評価を実施し、日々の取り組みを振り返り、管理者や総合施設長との個人面談の際に個人の目標や意見を表せる機会を作り、日々のサービスに活かしている。

**<馴染みの人や場との関係継続の支援>**  
一人ひとりの以前の生活歴を踏まえ、本人が築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様支援している。又、知人や友人にもホームに気軽に来所して戴き、以前の関係が継続的に交流が出来る様努めている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を理解し、定期的にご利用者個々のカンファレンスを行い理念に基づいた支援ができるよう努めている。	法人独自の理念を基に、全員が理念を理解し、定期的に理念を振り返る機会を作り、それに沿った支援が出来るように取り組んでいる。	今後は、事業所及びユニット毎の理念・目標を作ることを検討しているため、その取り組みに期待します。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出する際(散歩、買い物等)日常生活において、地域の方と顔を合わせる機会を作っている。また、行事を行う際には家族や地域の方にも案内状を出し、参加の機会を作り、利用者スタッフ共々交流出来るよう心掛けている。	日常の散歩や買い物の挨拶、事業所主催の行事や緊急時の避難訓練等の案内状を地域住民に配り参加を呼び掛けている。また、地元の高校生の体験学習の受け入れや地元の行事にも積極的に参加し交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れや、地域の方参加の2級ヘルパー講習の実習受け入れ、また講師としての協力をしている。利用者家族には毎月のしおさい通信に「認知症の豆知識」を載せる事で、認知症の理解を深めて頂ける様取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みを報告するとともに、運推メンバーからの質問や意見や要望を貰い活かせるようにしているが、メンバーの中でまだ参加して頂いていない方もいる。	運営推進会議は年6回実施し、近況報告や行事への参加、避難訓練等意見交換して、委員からの質問や意見や要望を真摯に受け止め運営に活かせるように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練や野外昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。行事に関係なくいつでも遊びに来て頂ける様にしている。又、地域包括支援センターとの関わりの中で、T、STの来町の際にはホームに来所して頂き利用者への個別指導をして頂いたり、スタッフの研修を開催して頂いたりしている。	町の担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、ホーム行事等に参加して戴き連携を深めるように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、職員会議や勉強会の際には身体拘束について全職員が理解できるよう話し合い、利用者一人ひとりが自分らしく、安心して生活できる場所になる様努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員会議や勉強会の際に話し合わせられ管理者及び職員の認識の共有が行われている。又、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待の防止について話し合いをし、身体的な虐待に限らず、言葉の虐待等がない様、利用者が日常生活の中で行動や発言等に制限なく自由に自分の意思で生活出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の利用はまだなく、各職員は理解していない部分がある。今後勉強会等を利用し、全職員が理解できる様にしていきたい。又、今後この制度が必要になってくるとされる利用者もいる為、行政に相談し検討して貰っている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得ている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含め都度時間を設け丁寧に説明をしている。又、改正時も同様詳しく説明し、同意を得ている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運推で、意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された時いつでも会話が出来、不満や意見があれば気軽に言って貰える様にしている。利用者については毎日の生活の中でいつでも要望等を聞ける様接している。又、ホーム玄関先には意見箱を設置している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。又、家族が来訪した際に、不満や意見があれば気軽に言って貰える様にしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。	毎月の職員会議の際に、管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、日々のサービスの質の向上に活かしている。又、随時、個別面談も実施している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には参加できるようにし、職員会議時に研修報告を発表している。又、ホーム内での現場に即した内容の勉強会も職員会議時に職員全員持ちまわりで実施している。その他事業所内研修を様々な内容で毎月実施している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまうが、昨年夏に他グループホームの行事に参加する機会があり、他グループホームの取り組みや意見交換する事が出来た。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、事前に必ず面談をし、利用者本人の希望や要望を聞き取る時間を十分にとり、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努め、センター方式を用い本人の生活歴等の把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、御家族の不安や要望等を聞き取る時間を十分にとり、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外泊、外出も出来る事、又いつでも家族の相談を受ける事等伝え、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、利用者の生活歴や現在に至るまでの経緯を聞き取りすると共に、今後必要と思われる他のサービス利用も含めた対応。例えば、利用者の身体状況や、家族の状況によっては訪問診療や訪問看護の利用について等の対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や家事等の作業を利用者と一緒に行ったり、行事等を一緒に楽しむ事で、共に支え合いながら信頼関係を築き、喜怒哀楽を共感できる者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のしおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。又、体調の変化等は電話にて報告し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重し、昔からの知人や友人にもホームに気軽に来所して頂き、継続的な交流が出来る様努めている。	一人ひとりの生活歴を踏まえ、本人が築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様に知人や友人が気軽に訪問でき、継続的な交流が出来る様努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員は情報を共有し、一人一人が孤立する事のない様、又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様心掛けています。			
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者一人ひとりの思いや希望等さりげない聞き取りをし、又表情や行動からも思いをくみとれるよう努めている。困難な場合は家族に相談したり、ケースカンファレンスをし本人本位に出来る様検討している。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有が行われている。又、日常の会話の中から、さりげない聞き取りや表情、行動から思いをくみとれるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族からの聞き取りや本人との会話の中からセンター方式やデータベースを作成し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から利用者個々の現状の身体状況や生活リズム等の把握をし、本人の有する力を最大限に活かし、自信に繋げて行ける様努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせる様本人や家族から意見や要望を聞き、職員全員でカンファレンスを行い意見交換し、現状に即した介護計画の作成をしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見やカンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のその日の出来事や本人の話していた言葉等記録に残し、職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽受診が必要になった時等、家族が対応出来ない時には職員が対応したりしている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の展望台やビジターセンター等へ出掛けたり、地元ボランティアの慰問や地元の床屋さんに来て頂いたりしている。又必要な利用者には訪問診療や訪問看護を利用している。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所や専門医の受診をしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。又、町の診療所の看護師とは気軽に相談出来る関係が築かれており、訪問診療も受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置により利用者の健康管理を行い、24時間体制で職員との連携をはかっている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師配置により病院関係者との情報交換や相談にも積極的に行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては重度化や終末期の在り方として前向きに取り組みをしたいが、地元診療所の医療体制が整っていない為難しい問題である。	重度化や終末期の在り方について、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日中、夜間の想定で年に2回行っている。又、火災時の一時避難場所として隣接するデイサービスからの協力も得ているが、地域住民からの協力体制は完全とは言えない。	年2回、消防署の協力を得て日中、夜間の想定で訓練を実施している。スプリンクラーの設置や避難時の職員の役割分担や地域への連絡網も構築されている。	今後は、更に地域との幅広い協力関係の呼びかけと体制の強化を検討しているので、その実践に期待したい。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々のプライバシーや人格を損ねないよう、入浴や排泄の際にはさりげない声掛け等職員全員で心掛け対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。又、記録や個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いを言いたせない利用者には、一人の時だと言いやすい場合もあるので、居室に行った時など声かけをしたり、又行動に表れる事もあるので、それを見逃さない様努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の生活の流れではなく、利用者個々の生活のペースを大切に、外出等の希望に出来る限り沿えるよう努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の好みや髪形等本人の好みに沿う様、起床時や着替え等の手伝いをする時には本人と相談しながら行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになる様、利用者の好みのもを聞いたり、新鮮な食材を使い利用者に味見等をして貰い、職員も一緒に食事をし、利用者個々の役割分担をしながら配膳から片付けまで一緒に行っている。	食事が楽しみなものになるよう、地元で捕れる海産物や食材を取り入れ、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を毎日チェックしている。記録にその都度残し、職員間で情報を共有している。又、自力での摂取が出来ない利用者には、介助にて摂取していただいている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯磨きと口の中の汚れが残っていないかの確認をしている。就寝前には毎日義歯洗浄をしている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって、さりげなく声掛けしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為毎朝起床時に牛乳を飲んで頂き、毎昼食にヨーグルトを摂って頂く事で排便がスムーズに出来るよう支援している。又便秘がちな方については、医師に相談し排便を促す薬の処方等をして頂いている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まってはいるが、希望があれば時間帯をずらす等し、利用者個々に沿った支援が出来る様にしている。	全員が最低、週二回は入れるように一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。又、本人が希望すれば曜日や時間等に拘らずに入浴対応可能となっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを尊重し、起床時間や就寝時間等も個々の生活リズムに沿った誘導をしたり、声掛けを行うようにしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送りですべて職員が把握出来る様にしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事、食器拭きや洗濯たたみ、ゴミ捨て等を職員と一緒にやり作業後には必ず利用者にありがとうございます。とお礼をする事で、やりがいのある生活が出来る様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせドライブに出掛けたり、希望があれば一緒に買い物に出かけている。遠方な場所は事前に勤務調整をし家族にも連絡をしながら一緒に出掛ける機会を作っている。ただ、季節的に冬場は雪が多く風も強い為外出の機会があまりなくなってしまう。	可能な限り外に出る機会を設け、本人の体調に合わせて、近郊の観光地へのドライブや町内への買い物等、戸外に出かけられるように支援している。又、遠方な場所は事前に家族にも連絡をし一緒に出掛ける機会を作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も、欲しいものがあれば自分で選び買い物ができる様している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかける時にはゆっくりと話が出来るように自室にてして頂いている。手紙が来た時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様返信もしてもらっています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節ごとの行事に合った飾り付けをし季節感を味わえる様にしている。又、採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、利用者が快適に過ごせる心地よい環境づくりを心掛けている。	リビングの壁には行事参加の写真や利用者の習字の作品が飾られ、季節ごとの行事に合った飾り付けをしている。また、採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、居心地よい環境づくりを心掛けている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には自宅で昔から使用していた馴染みの物を置き、家族やペットの写真や壁に飾ったり、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、仏壇や家族の写真等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを貼りだし自分の場所が分かるようにしている。又トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 二階		
所在地	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町14-5		
自己評価作成日	平成23年2月6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。夏場は熊、鹿、キタキツネも間近に見られ、厳しい冬にはオジロワシ、オオワシ、白鳥も見られます。そんな環境の中で精神的なリフレッシュは勿論、体調にも大変良い所です。また羅臼町は漁師町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や知人、友人から新鮮な魚介類の差し入れを頂き、皆で美味しく頂いております。そして、多少町から離れているもの車で走ればほんの数分の位置に今まで利用者さんが行っていた昔から顔馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が自然に維持出来ています。また、町内会や婦人部の方々が慰問に来てくれ歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等話に花を咲かせています。それから、当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。家事仕事が得意な方には食器拭きや洗濯たたみ等の作業と一緒に、調理が得意な方には味付けや調理の仕方等を教えてもらったり、毎日の生活の中で役割や楽しみを持ち、利用者が生き生きと生活していけるようお手伝いしています。又、利用者と職員の関係が利用者、職員としてではなく、人対人としての関わりとして、共に笑い、共に泣き、時には共に怒り、と一緒に感じながら過ごしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を理解し、理念に基づいた支援ができるよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出する際(散歩、買い物等)日常生活において、地域の方と顔を合わせる機会を作っている。また、行事を行う際には家族や地域の方にも案内状を出し、参加の機会を作り、利用者スタッフ共々交流出来るよう心掛けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受入れや、地域の方参加の2級ヘルパー講習の実習受け入れ、また講師としての協力をしている。利用者家族には毎月のおおし通信に「認知症の豆知識」を載せる事で、認知症の理解を深めて頂ける様取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みを報告するとともに、運推メンバーからの質問や意見や要望を貰い活かせるようにしているが、メンバーの中でまだ参加して頂けていない方もいる。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練や野外昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。行事に関係なくいつでも遊びに来て頂ける様にしている。又、地域包括支援センターとの関わりの中で T、STの来町の際にはホームに来所して頂き利用者への個別指導をして頂いたり、スタッフの研修を開催して頂いたりしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、職員会議や勉強会の際には身体拘束について全職員が理解できるよう話し合い、利用者一人ひとりが自分らしく、安心して生活できる場所になる様努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待の防止について話し合いをし、利用者が日常生活の中で行動や発言等に制限なく自由に自分の意思で生活出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の利用はまだなく、各職員は理解していない部分がある。今後勉強会等を利用し、全職員が理解できる様にしていきたい。又、今後この制度が必要になってくるとされる利用者もいる為、行政に相談し検討して貰っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得ている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含め都度時間を設け丁寧に説明をしている。又、改正時も同様詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運推で、意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された時はいつでも会話が出来、不満や意見があれば気軽に言って貰える様にしている。利用者については毎日の生活の中でいつでも要望等を聞ける様接している。又、ホーム玄関先には意見箱を設置している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には参加できるようにし、職員会議時に研修報告を発表している。又、ホーム内での現場に即した内容の勉強会も職員会議時に職員全員持ちまわりで実施している。その他事業所内研修を様々な内容で毎月実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまいがちだが、昨年夏に他グループホームの行事に参加する機会があり、他グループホームの取り組みや意見交換する事が出来た。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、事前に必ず面談をし、利用者本人の希望や要望を聞き取る時間を十分にとり、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、御家族の不安や要望等を聞き取る時間を十分にとり、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外泊、外出も出来る事、又いつでも家族の相談を受ける事等伝え、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、利用者の生活歴や現在に至るまでの経緯を聞き取りすると共に、今後必要と思われる他のサービス利用も含めた対応。例えば、利用者の身体状況や、家族の状況によっては訪問診療や訪問看護の利用について等の対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や家事等の作業を利用者と一緒に行ったり、行事等を一緒に楽しむ事で、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のしおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。又、体調の変化等は電話にて報告し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重し、昔からの知人や友人にもホームに気軽に来所して頂き、継続的な交流が出来る様努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員は情報を共有し、一人一人が孤立する事のない様、又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様心掛けています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、希望する暮らし方が出来る様努めている。困難な場合はケースカンファレンスで本人本位に出来る様検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族からの聞き取りや本人との会話の中からセンター方式を作成し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方や身体状況を記録に残し把握できるようにし、現在出来る事や、している事を把握し現状維持出来る様努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、ご本人の思い、家族の希望、スタッフからの情報を集め現状に即したプランの作成をしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のその日の出来事や本人の話していた言葉等記録に残し、職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽受診が必要になった時等、家族が対応出来ない時には職員が対応したりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の展望台やビジターセンター等へ出掛けたり、地元ボランティアの慰問や地元の床屋さんに来て頂いたりしている。又必要な利用者には訪問診療や訪問看護を利用している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所や専門医の受診をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置により利用者の健康管理を行い、24時間体制で職員との連携をはかっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師配置により病院関係者との情報交換や相談にも積極的に行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては重度化や終末期の在り方として前向きに取り組みをしたいが、地元診療所の医療体制が整っていない為難しい問題である。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日中、夜間の想定で年に2回行っている。又、火災時の一時避難場所として隣接するデイサービスからの協力も得ているが、地域住民からの協力体制は完全とは言えない。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々のプライバシーや人格を損ねないよう、入浴や排泄の際にはさりげない声掛け等職員全員で心掛け対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いを言いたせない利用者には、一人の時だと言いやすい場合もあるので、居室に行った時など声かけをしたり、又行動に表れる事もあるので、それを見逃さない様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の生活の流れではなく、利用者個々の生活のペースを大切に、外出等の希望に出来る限り沿えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の好みや髪形等本人の好みに沿う様、起床時や着替え等の手伝いをする時には本人と相談しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになる様、利用者の好みのものを聞いたり、新鮮な食材を使い利用者に味見等をして貰い、職員も一緒に食事をし、下膳や食器拭き等利用者の出来る事を手伝って貰いながら一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を毎日チェックしている。記録にその都度残し、職員間で情報を共有し、水分量の少ない場合には夜間時に声掛けをし、摂取してもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯磨きと口の中の汚れが残っていないかの確認をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には消化の良いものを取り入れ、毎日牛乳やヨーグルトを摂って頂いている。又便秘がちな方には簡単に出来る運動や、医師に相談し排便を促す薬の処方等をして頂いている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まってはいるが、希望があれば時間帯をずらす等し、利用者個々に沿った支援が出来る様にしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを尊重し、夜も本人が眠いと訴えがあれば誘導したり、声掛けを行うようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送り、全職員が把握出来る様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事、食器拭きや洗濯たたみ、ゴミ捨て等を職員と一緒にやり、作業後には必ず利用者へありがとうございます。とお礼をする事で、やりがいのある生活が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせ散歩をしたり、希望があれば一緒に買い物に出かけている。遠方な場所は事前に勤務調整をし家族にも連絡をしながら一緒に出掛ける機会を作っている。ただ、季節的に冬場は雪が多く風も強い為外出の機会があまりなくなってしまう。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も、欲しいものがあれば自分で選び買い物が出来る様している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかける時にはゆっくりと話が出来るように自室にてして頂いている。手紙が来た時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様返信もしてもらっています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節ごとの行事に合った飾り付けをし季節感を味わえる様にしている。又、採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、利用者が快適に過ごせる心地よい環境づくりを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には自宅で昔から使用していた馴染みの物を置き、家族やペットの写真や壁に飾ったり、本人が居心地良く過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを貼りだし自分の場所が分かるようにしている。又トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。		



### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念はあるが、事業所単体で全職員が共有出来る理念を作っていない。	しおさい独自の理念を持つ事で職員間でのケアの質の向上を目指す。	職員会議の中で職員全員の意見を取り入れながら検討し、実施するまでを目的とする。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。